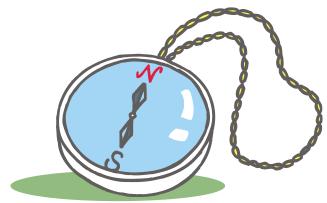


羅針盤



第 29 号

令和5年12月18日(月)

◆ 地球を冷やす5つの習慣

近年、人間が活動することによって、大量の温室効果ガスが大気中に放出され、地球の気温が上昇し続けて、気候や生物など自然界のバランスを崩している「地球温暖化」と呼ばれる現象が進行していると言われています。地球の表面はもともと窒素や酸素、二酸化炭素(CO₂)などの大気が取り巻いていて、気温を一定に保つ役割を果たしています。しかしながら、私たち人間の生活によって石炭や石油などの化石燃料を大量に燃やしたことにより、二酸化炭素(CO₂)などの「温室効果ガス」の排出量が大幅に増えた結果、余分な熱が宇宙に放出されず地球にこもった状態になったことが、地球温暖化の原因とされています。地球温暖化が進行することで、地球の気象が変化し、極端な気温の上昇による熱波や強い台風や集中豪雨などの異常気象による災害が頻発したり、干ばつによる食糧危機、海面上昇による居住地の喪失などが引き起こされるそうです。すでに、温暖化による影響は、私たちの生活においても、近年の台風や集中豪雨などによる災害や熱波などによる熱中症のリスクなど私たちの生活を脅かす身近な問題となっています。

では、この地球温暖化を防止するための取り組み、つまりは私たち一人ひとりは地球を冷やすためにどのような行動を起こせばいいのでしょうか。地球を冷やすための習慣、まずその一つ目は、「どうせ変わらない」と思うことをやめる、地球に何が起こっているかを知って一人ひとりが何ができるかを考え、意識的に行動することです。これがないと何一つとして始まらないということ。一人ひとりの力は小さくても、決して無力ではなく、「何をやっても変わらない」と思うことをやめ、「何ができるだろうか」と考え出すこと。二つ目に、「そのうち使うかも」と思って買わないこと、地球環境のためにできる最もミニマムな行動は

「ゴミを減らす」ことです。「必要な物を使う量だけ買う」ことを習慣にするだけで、ゴミの量は違ってくるそうです。三つ目に、グリーン購入に取り組むこと、グリーン購入とは原料の調達から製品の廃棄までを考えてつくられた環境への負担が少ない製品やサービスを選んで購入することです。「特別な物」を選ぶのではなく、日常の買い物の際に、「環境に良いかどうか」をチェックして購入することを心掛けることです。四つ目に、体においしいものを選ぶ、いわゆるスローフード（土地に根ざした伝統的な食材や、有機栽培や減農薬などの生産方法で作られた質のよい食品）、または、地産地消（地元で生産されたものを地元で消費する）の取り組みを率先的に行うということ。そして、五つ目に、身近な自然に目を向けること、自然と聞くと、私たちは雄大な風景や心を癒される場所を思い浮かべがちですが、そうではなくて、特別な場所に行って自然を堪能することを言っているのではなく、ベランダのプランターや道端の雑草、庭に集まるスズメ、街路樹の草むらとそこに生きる虫たちなど、そういった身近にある自然に目を向けることを忘れないことです。環境への負荷を抑えること、それは私たち一人ひとりが担っていくべきことであるはずです。より良い環境を未来に残す責務は私たち一人ひとりが「自分のこと」として何をしなければいけないかを考えだすことから始まるはずです。

